

障害者に係る共生社会実践活動事例

旧中学校生徒寄宿舍を活用した交流拠点「たんぽぽハウス」

NPO法人 にしはらたんぽぽハウス（熊本県西原村）

西原村役場の西隣りにあった旧西原中学校生徒寄宿舍を清掃、改修して、三障害共生型の自立支援センターとして活動しているほか、障害の有無を問わず、誰もが気軽に立ち寄れる地域交流の場として開放しており、子どもから大人まで地域住民のちょっと一服の場所としても利用されている。

- ・ワンコインランチ：自分たちで育て、収穫した農作物を使い、毎週金曜日に週替わり定食を500円で提供。スタッフやボランティアの指導のもと、障害のある人が接客や盛りつけ、配膳などを行っている。
一人暮らしの高齢者や子育て中の母親など地域の人たちも気軽にランチを食べに来ており、障害のある人と日常的にコミュニケーションを図っている。
- ・米作り、野菜作り：地元農家の協力

を得ながら、自然農法、無農薬にこだわった農業活動を行っている。障害のある人がスタッフやボランティアと一緒に農作業をし、収穫したものを麦味噌や梅干し、玉露茶、きな粉、芋ようかんなどに二次加工して「たんぽぽ製品」として販売している。

- ・児童との交流：村内の保育園や小・中学校と連携して、夏休みにハウス内でワークキャンプを開催するなど、障害のある人たちとの交流を図っている。たんぽぽハウスのことを知ってもらい、子供達が気軽に立ち寄れる場となるように心がけている。
- ・イベント：障害の有無に関わらず、皆が参加できる料理教室や陶芸教室などをハウス内で頻繁に開催。また、村のバザーや夏祭りなどの行事にも積極的に参加し、障害に対する地元住民の理解を深めている。

